

平成27年度東大阪大学柏原高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学園訓の具現化を図り、知力の充実と豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、進学を目指す生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに取り組む。

- ① 伸びしろのある生徒を多数受け入れて学力の向上を図り、進学・就職の実績をアピールできる学校
- ② 自己表現力、コミュニケーション力等の苦手な生徒が、安定した学習環境と充実した教育相談体制の中で生き生きと生活できる学校
- ③ 凡事徹底を推進し、生徒の生活規律を確立させて多様な進路実現を可能とする学校
- ④ スポーツに秀でた生徒を鍛え上げ、全国大会出場等の優れた競技実績を上げる学校
- ⑤ 学校活性化の志を強く持ち、生徒を愛し、生徒と向き合い、家庭とも連携してとことん面倒を見ていく教職員集団が形成されている学校

2 中期的目標

1 学力向上とキャリア教育の深化・充実

- (1) 教科会議の定例化と指導方法の研究推進
- (2) わかる授業を目指した公開授業・授業公開、さらには授業研究会の確立
- (3) 総合的な学習の時間を活用した「進路研究」でのキャリア教育の推進
- (4) 生徒の学力実態と興味関心を踏まえた多様な進路実現が可能なカリキュラムの研究
- (5) 放課後学習や補充学習等の実践

2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進

- (1) 生徒が集中して学べる学習環境の整備
- (2) 生徒の主体的な活動を育成するための生徒会活動の活性化
- (3) 学級経営を充実させ、学級集団の育成を図る
- (4) 挨拶、身だしなみ、頭髪、時間の厳守等の「凡事徹底」
- (5) 問題事象への迅速な対応と外部機関等との連携の強化
- (6) 生徒の実態のきめ細かな把握と転退学者「0」に
- (7) 相談機能の充実
- (8) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化

3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上

- (1) 課題に応じた校内研修会の充実
- (2) 人事交流の促進
- (3) 地域との連携の強化
- (4) 外部人材の活用

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [①H27.7実施, ②H28.2実施]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒：①及び②の調査を比較した結果、特徴的なものは以下のような点であった。</p> <p>(1) 調査全体を通して肯定的評価が高い数値を示している。「学校に来るのは楽しいですか」「将来の夢や希望、卒業後の進路を考えて学校生活を送っていますか」等は10P前後上昇している。</p> <p>(2) 学年による差異がある。第2学年は調査①より肯定的評価が多数の項目で上昇しているが、第1学年は肯定的評価の少しの下落が見られた。</p> <p>(3) 第2学年は、18項目で調査①を上回っている。特に肯定的評価が10P以上上昇している項目は、「学校に登校するのは楽しいですか(12, 2P↑)」「将来の夢や希望、卒業後の進路を考えて学校生活を送っていますか(14, 7P↑)」「学校の進路指導は進路を考える上で役に立っていると思いますか(12, 1P↑)」の4項目であった。</p> <p>○保護者</p> <p>(1) 今回の調査で80Pを超える項目は13項目であった。</p> <p>(2) 特に「生活指導」「進路指導」「部活動」「学校生活」の評価が高かった。</p> <p>(3) 70Pを下回る項目は2項目となっている。「意欲的に授業に取り組んでいるのか」「理解しやすい授業の展開」である。</p> <p>○教職員</p> <p>(1) 肯定的意見の評価が80%以上の項目は「毎時の目標を明確にし授業している」「授業進度は生徒の実態に合わせ適切か」等であった。生徒の理解状況等の学習状況の把握に努め、教科指導を行っている。</p> <p>【分析】</p> <p>保護者の回答結果から、本校の教育活動に対する信頼の厚さを感じられ、家庭との連携・協力という視点から心強く感じる。継続して、家庭との連携を図りながら信頼を損なわない実践が求められている。また、生徒の回答結果から、学校生活を肯定的に捉えている生徒が少し上昇し、改善傾向が見える。今後、さらに肯定的評価者の増加を図る教育実践を進め、学校全体の教育の質的向上につながるよう努めていきたいと考えている。学習指導について、教員と生徒との受け止めかたの差異が認められる。指導する側は教材研究等、授業が分かりやすく理解しやすいようにしっかり準備をして臨んでいるのだが、昨年度と同様の結果になっており、継続課題の「分かる授業」「楽しい授業」への改善、「指導方法・指導内容の工夫」等、授業力に関する研究をさらに進めていくことが大切である。毎週開催の教科会議や公開授業、授業公開等を通して、各教科で、学校全体で研究活動を推進する体制づくりを進め、生徒・保護者のニーズに近づく実践を進めていけるよう努めていく必要を感じる。一方「目的をもって学校生活を送っているか」が7P上昇し7割になったことは好ましい傾向で、生徒がより一層意欲的に学校生活を送ることができるようになってきていると感じる。</p>	<p>～評価委員：学識経験者(市内在住) 保護者代表(後援会会長) 元後援会役員代表 同窓会代表～</p> <p>○平成27年度、教科指導や生活指導と生徒支援も万全な体制で進めており、就職や進学についても生徒の将来に不安なくのびのび勉学、部活動に励むことができている。その他、教職員の資質の向上や生徒の得意分野を伸ばす教育にも取り組まれており期待できると思われる。</p> <p>○評価は、大変肯定的な回答が多いので、このまま総合的に進めていただきたい。</p> <p>○部活動が活発であることやマナー・服装等々がきちんとできていると評価されている事は大変良い事である。今の世の中は勉強も大切だが、人間力不足が課題である。コミュニケーション力や仕事や社会で活かす姿勢が何より大切になってくるので、部活動や生活規律力が高い本校は大変良いと思う。</p> <p>○本校の長所は、生徒の興味・関心を引き出すようキャリア教育を実践している点である。大学・専門学校、その道のプロや企業の人から話を聞いたり体験できることは、他校にはあまりないことである。約半数が大学に進学する一方、就職難の中、内定率が約100%を維持している。就職に強い柏高と言われる所以であり、面倒見の良い教員のきめ細かな指導のお陰である。進路指導への肯定的評価は高率で、学校の指導に対し生徒(保護者)の期待は大きい。</p> <p>○「学校は楽しい」では、ともに「そう思う」が「思わない」の2倍程で、中だるみの2年生でも高率になっており、楽しい学校のイメージが伝わってくる。(平成26年度調査でも同様の傾向)</p> <p>○特色に関する設問では、高い肯定的評価があり、生徒は極めて前向きである。私学としての教育姿勢・教育指導への評価が高い。様々な実践をし、伝統的な私学教育らしい特色を表している。生活指導・進路指導・部活動・基礎学習指導では、以前より掘り下げた研究→実践→反省が実践されてきた。徐々に本校らしい教育実践の伝統も育ってきた。しかし、時代とともに教える側も生徒も、体質と教育環境は大きく変化してきている。学校では毎年度「事業計画」を立ち上げ改善・推進のために各分野にわたり網羅した多くの課題を挙げ、教育成果を上げるための大きな目標(学校づくり)に向けた研究活動と実践を展開してきている。</p> <p>○校訓と生活指導、特に生活指導の厳しさを自覚し、容認もとれるくらい自己を律していこうとする高校生活の姿が感じられる。これは、反復し細かく指導している教員の前向きな指導を評価しており信頼感が見えてくる。</p> <p>○授業に対する評価では、肯定13.3%、否定13.4%で、生徒の自意識の希薄さを感じられる。これが「授業への集中」「授業の工夫」「自分の考えをまとめる」「先生への質問」等、具体的な行動面でも積極性に欠け、意欲を駆り立てにくい一面につながることもあるが、生徒にとって分かりやすく集中できる授業の工夫も進めてもらいたい。</p> <p>選択科目では、肯定25.4%、否定21.7%と拮抗している。自ら選び学ぶ科目では個性的な学習として関心が高いか、自分の希望する科目に行き当たらないのかとの思いも残る。相対的には前向きに取り組んでいるようだ。また、成績の総合的な評価方法に関して、生徒は自己の真剣さを教員が評価していることを十分理解している。</p> <p>○学校行事・生徒会活動への関心は低調である。中学時代にはリーダー性を充分発揮できる環境には遠かっただろう彼らにとって無理もない。高校入学以降、一人でも多くの生徒が過去にとらわれることなく主役として積極的に参加し活動できるよう、生徒が中心となり先生方とともに考え取り組むことが望ましい。特に教師集団の後押しが必要であることは言うまでもない。</p> <p>○平成26年度調査との比較では大きな変化がない。本校の教育活動が着実に展開されている証を感じる。改善の余地はあるが折角の取組が後退しないよう、すべての分野において前進あるのみ。今まで学校独自に考えられてきた教育事業は時代とともに大きく変化してきた。公教育として全てがガラス張りであり、従来と違ったアピールの方法が一層求められる。目標を作れば必ず結果を求めらる。どのような成果があったのか、生産活動のように数字は出せないが、目標に対する成果のパロメーターの一つが、今実施されている生徒の意識調査である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とキャリア教育の深化・充実	(1) 授業の質的向上			
	ア) 授業の質的向上のための研究推進体制の確立 イ) 教員間で研鑽し合う体制づくり ウ) 学び直しの時間充実	ア) 教科会議を定例化し、指導方法や指導内容の交流や情報交換等を行い授業の質を高める実践を行う。 イ) 改革推進部が中心になり、授業公開や公開授業期間の設定を行い、授業を通じた教員間の交流を進める。参観して気づいた点などは、参観カードを作成し授業者に渡す。 ウ) 放課後学習の場(真-Navi Room)や「国」「数」「英」における基礎学力を学ぶ時間の設定を行う。	ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 イ) 実施授業公開などでの参加者数及び自己診断の授業に関する項目の実績 ウ) 自己診断における放課後学習の場の活用項目	ア) 教科会議の定例化で、教科内での打合せがしやすくなり効果を上げている。進度の調整だけでなく、指導方法や内容等の研修をしている教科もある。 イ) 昨年度引き続き授業公開期間や全教科に取り組んだ。授業者や参観者双方にとって力量の向上につながっている。また、長年中断されていた保護者の授業参観を11月に実施した。保護者からは早い時期の実施要望があった。 ウ) 「真-Navi Room」の活用は第1学年が主に、第2学年は昨年に引き続き、同一の生徒が学習を続けている。第2学年は、外部の指導者に指導をお願いしている。
	(2) 多様な進路選択への対応			
	ア) 進路未定者「0」を目指す イ) 就職内定率100%の継続を目指す。 ウ) 進路を見据えた選択科目の充実と研究	ア) 進路指導部と学年との十分連携・情報交換を強化する中で、一人一人の生徒の状況を把握し、共通理解を図り、計画的系統的な進路指導を行う。 イ) 企業や事業所とのつながりを維持しつつ、生徒の興味関心も把握し、コーディネーターを活用し、内定に至るまで指導を徹底する。 ウ) 選択科目開設2年目。関連科目をまとめ専門的に学ぶ系列化に取り組み、H28年度以降の進路につながる選択科目について研究を継続する	ア) H27年度進路状況の実績 イ) H27年度就職内定状況実績 ウ) 自己診断の評価結果	ア) 大学(短大含む)進学 126名 専門学校進学 45名 就職(縁故・自営含む) 89名 公務員(警察官) 1名 (H28.4.1末現在) イ) 学校紹介の就職希望者は62名(53企業) 内定率99.6% (H28.4.1末現在) ウ) 系列化と個別の講座選択との併用を行い、系列化全面实施の足がかりとなった。
2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進	(1) 自己肯定感の育成			
	ア) 生徒が活躍できる場の設定 イ) キャリアアシストコースの充実 ウ) 退学者の「半減」	ア) 生徒会活動の活性化 生徒会が主体になった柏高祭(文化祭)の開催 学校説明会等での生徒会はじめ有志の生徒の協力、発表の場面の設定 宮滝(吉野)での野外活動及び集団活動による仲間づくりの実践 イ) 生徒サポート部の充実を図り、支援を必要とする生徒の状況把握と共通理解に努める。カウンセラー等、教育相談室との連携強化を図る。 ウ) 生徒へ状況のきめ細かな把握と家庭との連携強化を図り、転退学者を減少させる。	ア) 自己診断の評価結果 イ) アシストコースの自己診断項目の評価結果 ウ) 退学者数の推移 89人→39人	ア) 柏高祭では、新校舎建設で場所が限られている中、生徒会が中心になり有志の生徒も含め企画運営をしており、初めての金券の処理もトラブルなく終えていた。 イ) 自己診断から、約7割の生徒が学校に来るのが楽しいと回答している。中学校時に不登校であった生徒も多数在籍しているが、クラスの様子や自己診断から学校での生き生きとした姿が見られる。進路を考えて生活している生徒も8割を超える状況である。 ウ) 達成できた。様々な理由で転退学者が出ているが、意欲を持たせる実践を通して退学者の更なる減少をめざす。
	(2) 凡事徹底の推進と学習環境の整備			
	ア) 挨拶、時間の厳守等の凡事徹底 イ) 問題行動への迅速な対応と古い生活指導からの脱却 ウ) 静謐な学習環境の確立	ア) 登校時の立哨指導及び通学路指導の徹底 生徒への声かけ イ) 受容と傾聴という姿勢での生徒への対応に心掛ける。また、学年会議や補導会議で家庭環境も含めた生徒の状況把握をし、生徒理解に努める ウ) 空き時間の教員による校内巡回を含め、静謐な学習環境整備のため、指導に乗らない生徒への丁寧な対応を行う。	ア) 外来者の評価・自己診断の該当項目評価結果 イ) 昨年度取り組んだ教育コーチング研修の実践	ア) 自己診断の当該項目では70%~80%の生徒が肯定的に評価している。来校者からは、「よく挨拶をしますね」と褒めていただくこともしばしば。スポーツコース生が中心であるが、他の生徒にも定着しつつある。 イ) 各教員が研修で学んだことを実践している。これまでの指導に加え、より生徒の言葉に耳を傾け、共有しながら指導に当たっている。 ウ) 空き時間を利用しての校内巡回に努めている。
3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上	(1) 校内研修の充実			
	ア) 各部等分掌の課題に則した校内研修の実施 イ) 次代を担う教員の力量向上のための研修会実施 ウ) 授業を中心にした研修会の実施	ア) 「人権教育」「サポート部」「改革推進部」「入試広報部」等、月曜日に設定の校内研修で計画的に実施 イ) MA研修:一定の年齢層の教員を中心に、学校経営の視点から研修会を実施 ウ) 各教科による公開授業研究会の実施	ア) 実施回数、研修内容 イ) 実施回数、研修内容 ウ) 実施回数、研修内容	ア) 今年度新たな内容の研修(学校評価、新設アシストコースの状況、塾長による講話)が計画的、先進的に実施でき、教員の資質の向上につながっている。 イ) 次代を担う教員への研修については、計画に基づく研修は100%は実施できていないが、来年度本校の教育活動に係る研修をMA研修と併せ実施した。 ウ) 全教科で公開授業が実施され、指導法や生徒の様子等、参観カードや教科会議等で、研究・交流することができた。また、授業公開期間を設定することにより、幅広く授業参観ができ、教員間の交流がより深まり成果があった。授業研究会や事例研修の実施が今後の課題となる。
	(2) 外部人材の活用と地域連携			
	ア) 専門学校や大学、企業等との連携と活用 イ) 教育活動への外部の人材活用 ウ) 柏原市・八尾市、自治会との連携	ア) 進学ガイダンスや大学・専門学校・企業見学会等の実施 イ) 部活以外の教育活動への人材活用や選択科目・各教科の授業等への専門性の配置 ウ) 地域連携の分掌を設け、市や商工会、自治会との積極的な連携を図る	ア) キャリア教育にかかる自己診断結果と実施内容 イ) 人材活用状況 ウ) 市や商工会等実行委員会主催行事参加状況	ア) キャリア教育の一環として実施。多数来校有。 イ) 第1学年の総合的な学習の時間、新1・2学年選択科目スポーツコース「進路研究」に外部の講師を招聘し、専門的な講話の実施 ウ) 行事等への生徒会や部員、留学生等の参加(市民総合フェスティバル、かしわら歴史まつり等) 地元柏原市との連携協定締結(9月)と連携推進